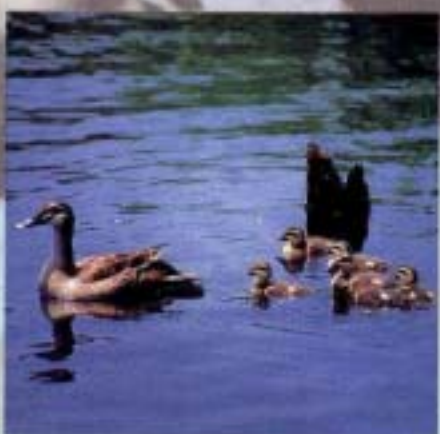
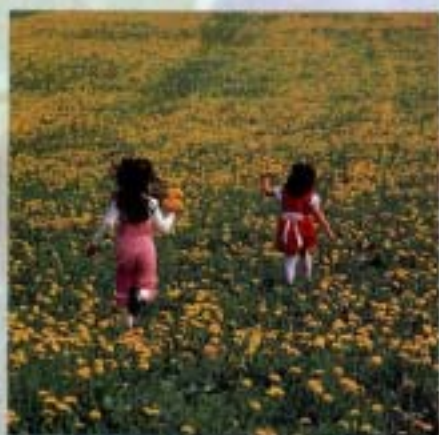
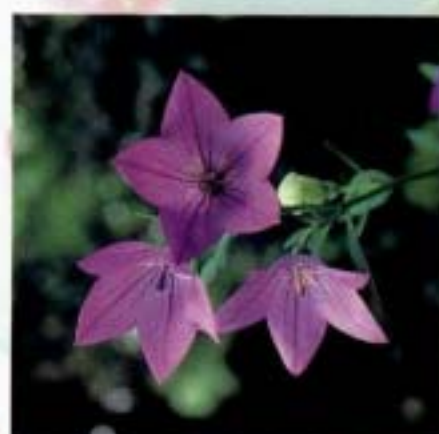


水の守り、地の潤い

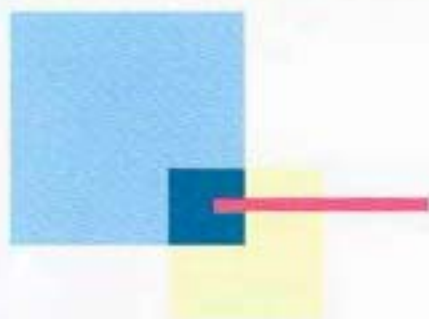
渋川雨水貯留管

Shibukawa Reservoir Project



快適な生活環境を造るために

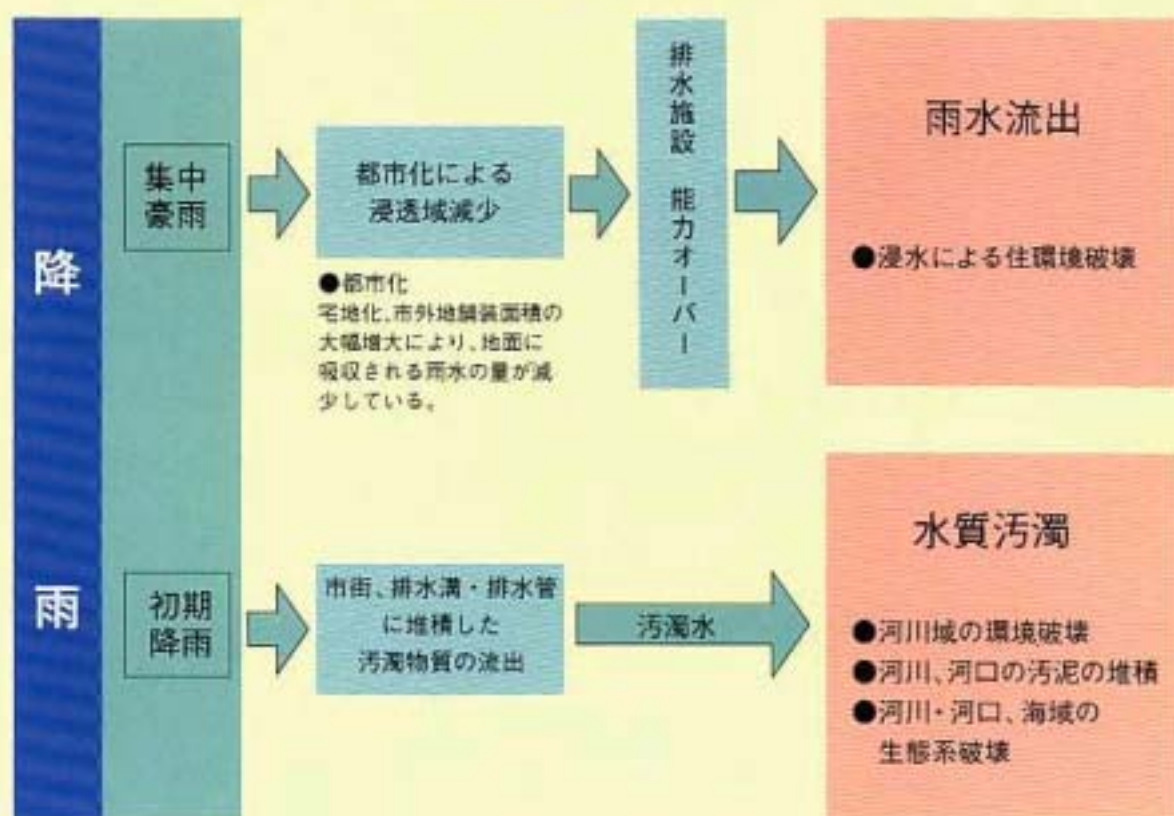
■貯留管の目的



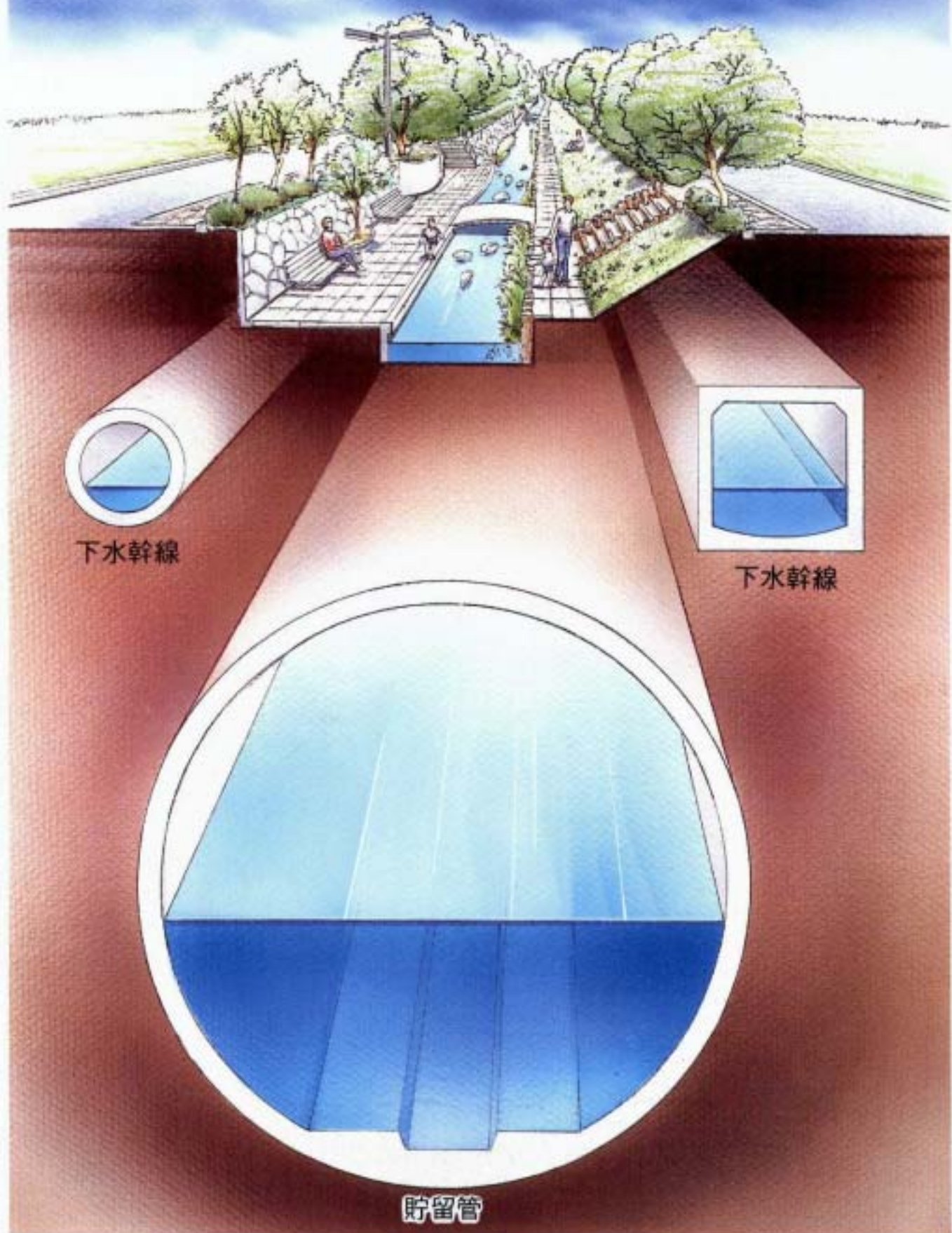
洗川の流域は、都市化が進むにつれて、雨水の流出を抑制できる土地が減少しています。このことから、市街地では雨水流出量が増大し、雨水排除施設の能力向上が求められています。

洗川雨水貯留管は、在来の排水施設の能力を超えた雨水を暫時貯留（量対策）し浸水を防ぎます。さらに、道路や管渠に堆積している汚濁物質を含んだ初期雨水を貯留（質対策）し、河海への流出を防ぎ、公共用水域の水質を保全するための地下貯留施設です。

■降雨による浸水と水質汚濁の発生



■貯留管断面図

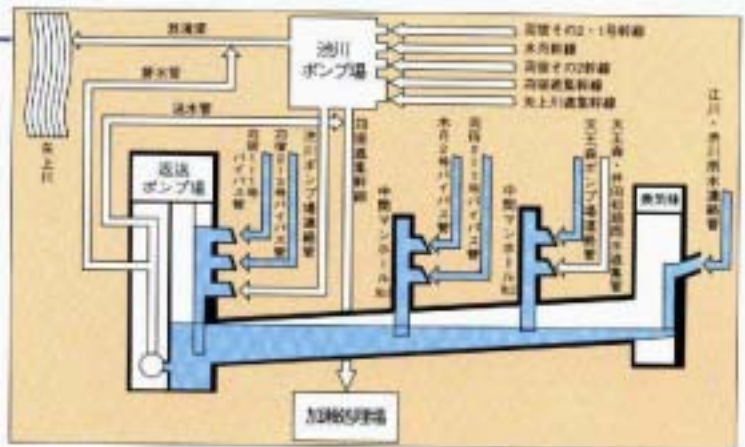


■取水・送排水フロー

1

1/10年雨水の取水（量対策）

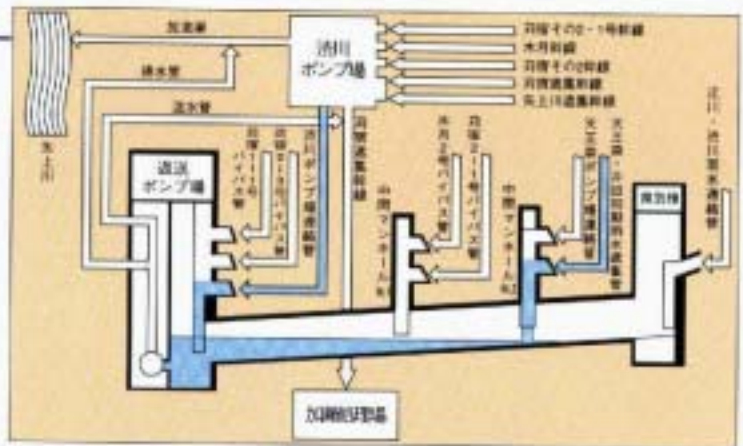
10年に一度の確率降雨に対応させるため、既存の排水施設的能力（5年に一度）を越える降雨量を一時的に貯留します。



2

初期雨水の取水（質対策）

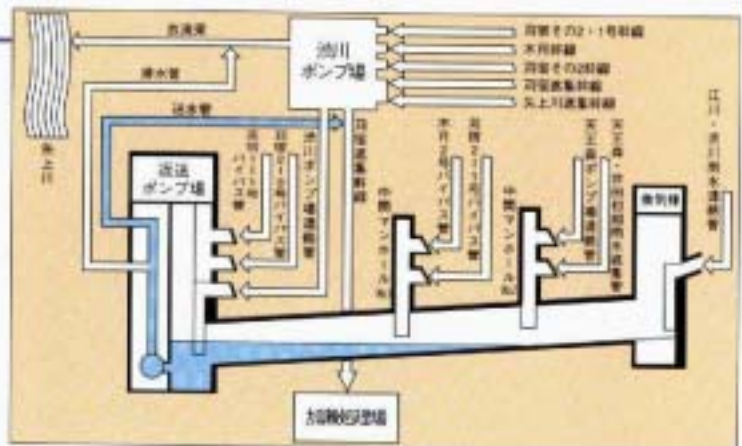
市街地や下水管渠に堆積した汚濁物質を含んだ合流式下水道の初期雨水が直接河川等流れ込まないように一時貯留します。



3

貯留水の送水

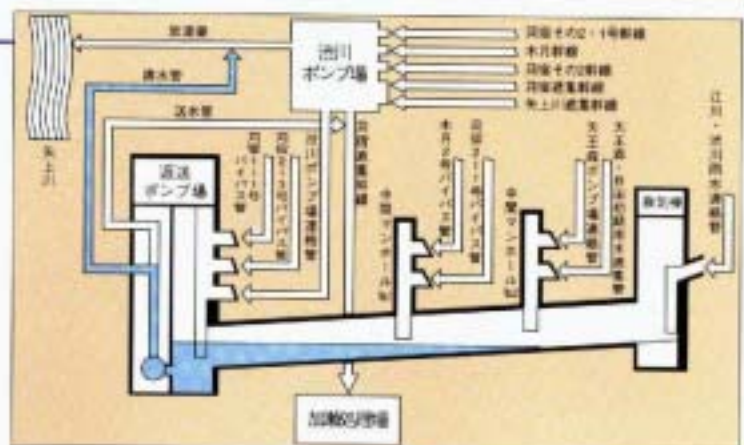
貯留水は、降雨後処理場へ送水し、処理後公共用水域へ放流します。



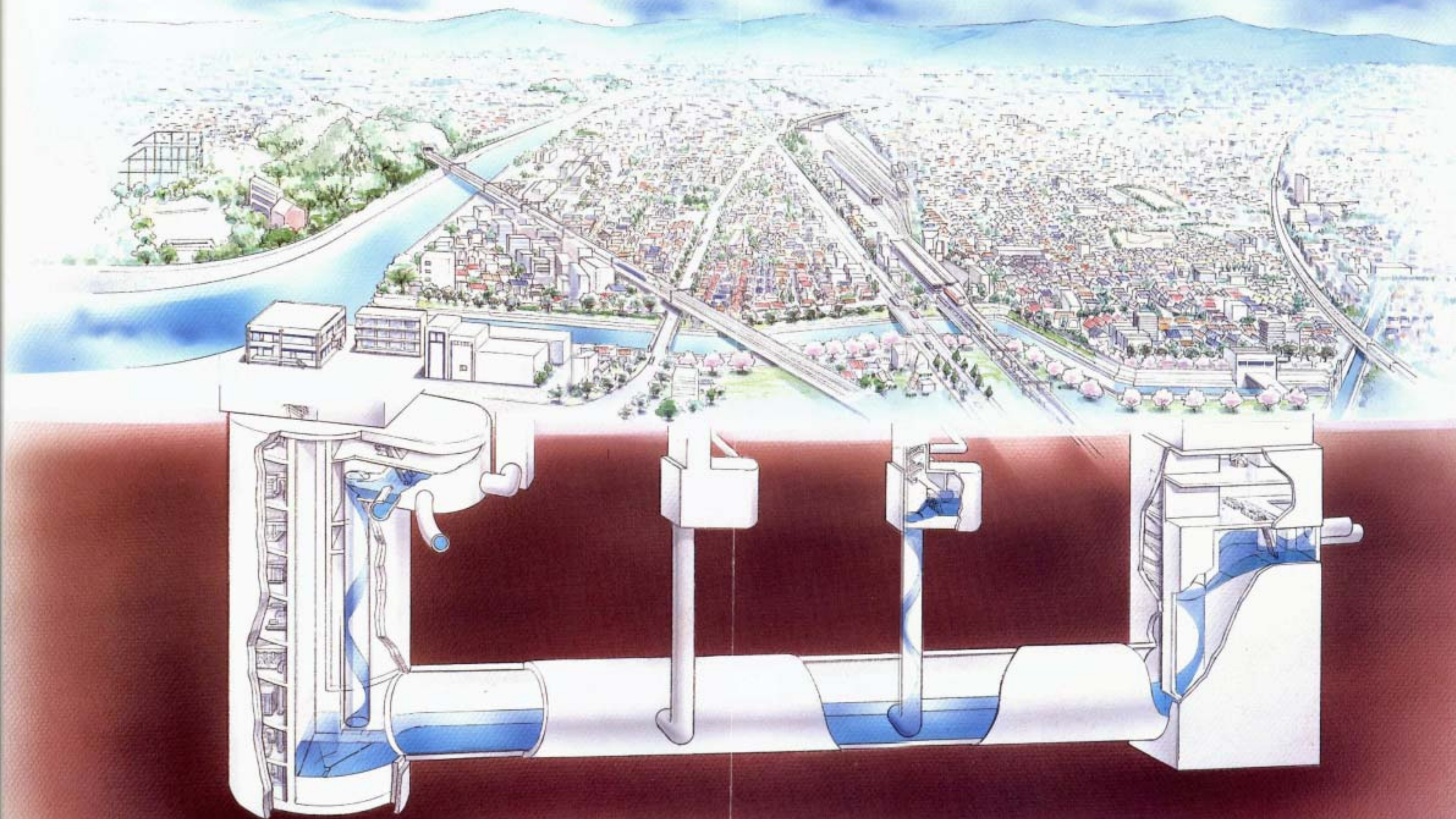
4

貯留水の排水

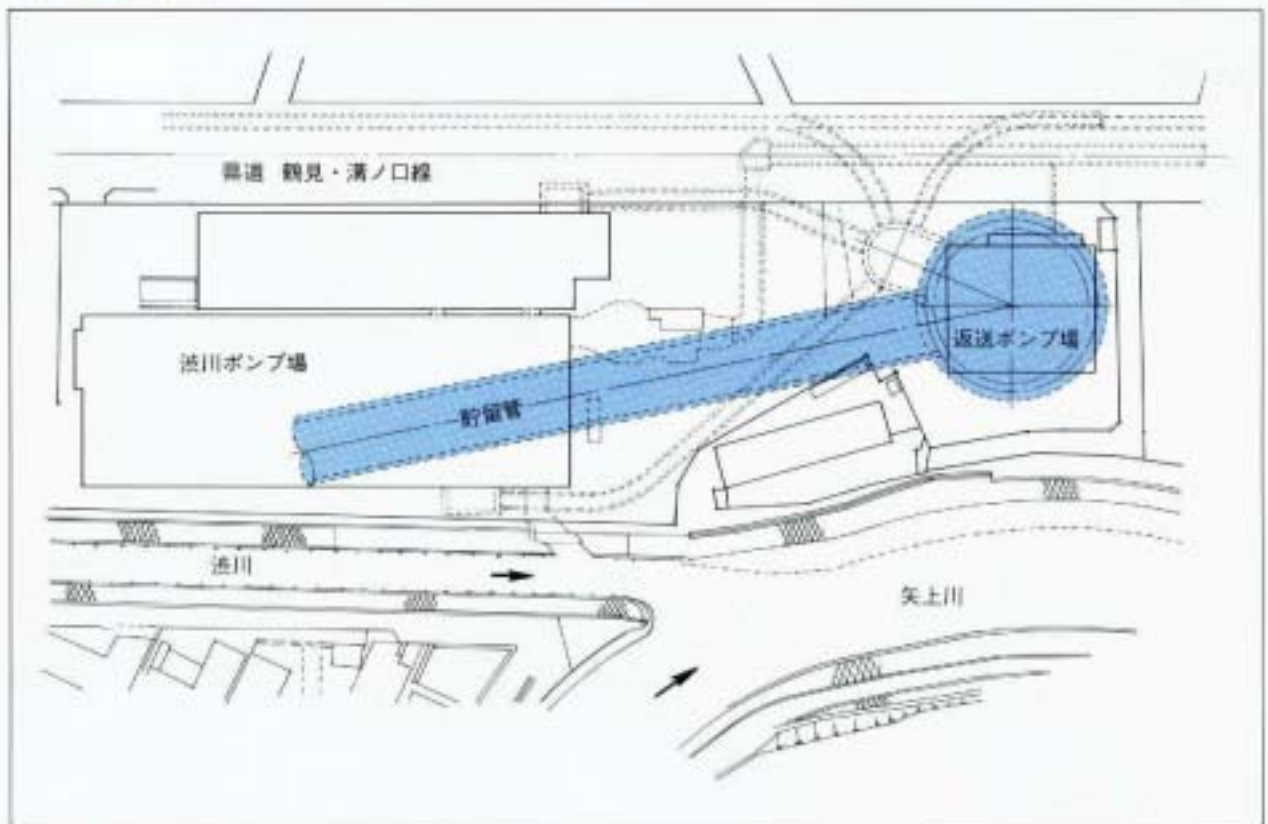
貯留管に雨水を貯留している時点で、ふたたび降雨があった場合、または、貯留水の水質によっては河川への排水を計画しています。



大規模雨水貯留管が浸水の危機から町を守ります。



■施設平面図



■施設概要

1. 貯留管本体

- 貯留容量・・・・・・21万 m^3
- 貯留管直径・・・・・・12.1m (外径)
・・・・・・10.4m (内径)
- 地下深度・・・・・・約56m
- 延長・・・・・・約2,560m

2. 換気棟

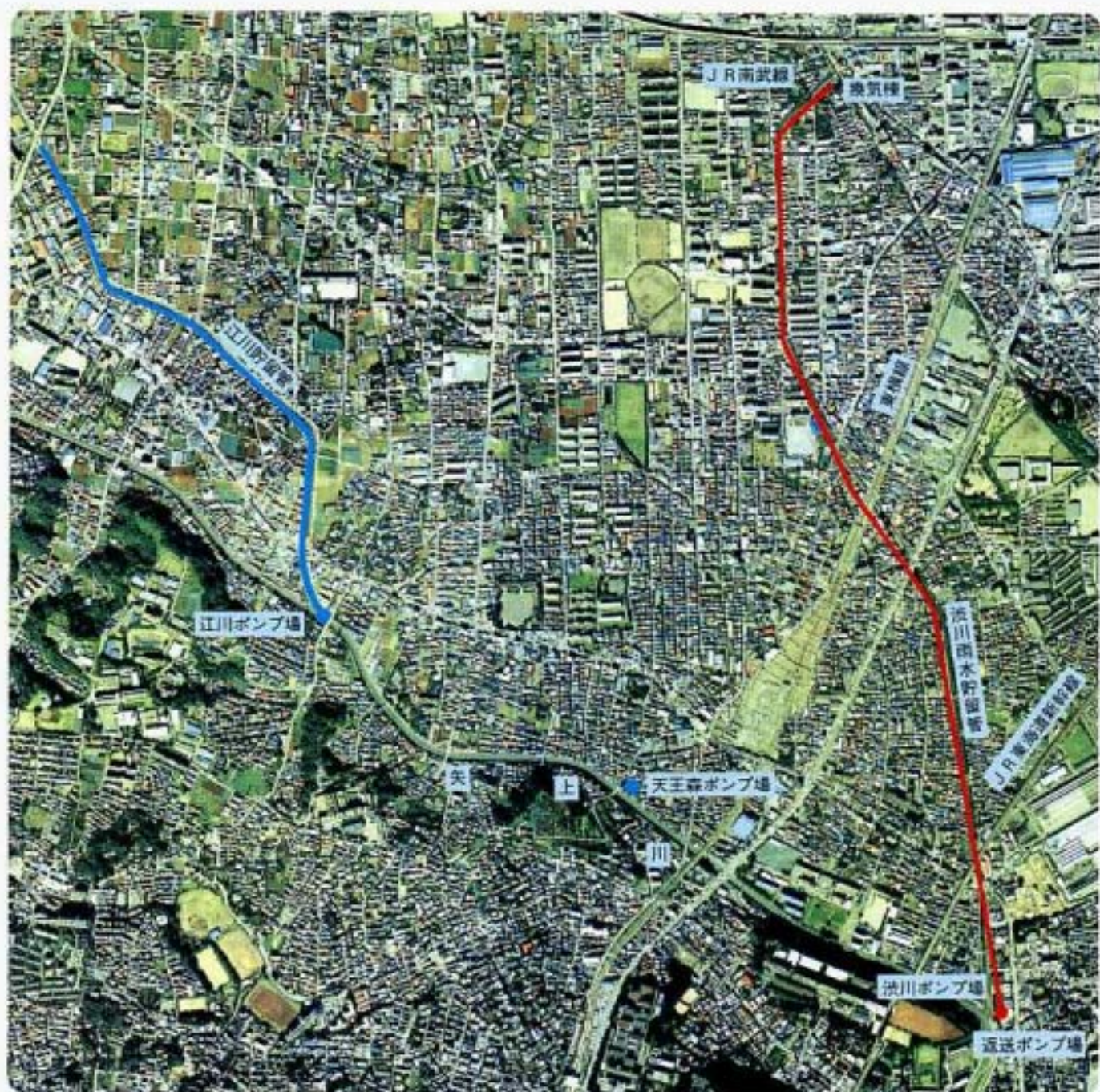
- 取水設備 (ドロップシャフト)
- 換気設備
- 脱臭設備
- 洗浄用水設備 (フラッシュ洗浄用)

3. 返送ポンプ場

- 取水設備 (ドロップシャフト)
- 貯留水の送・排水設備
- 洗浄水の排水設備
- 沈砂の排出設備
- 換気設備
- 脱臭設備
- 管内洗浄ロボットの搬入搬出設備
- 貯留管の運転制御設備
- 受変電設備
- 発電設備
- 消火設備

4. 中間取水マンホール

- 取水設備 (ドロップシャフト)



市民の木「つばき」



市民の花「つつじ」

川崎市下水道局
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL.044-200-2111(代表)